

滝日記

「滝ッズ」大集合！ 第六回 東吉野村和佐羅滝 楠田行展

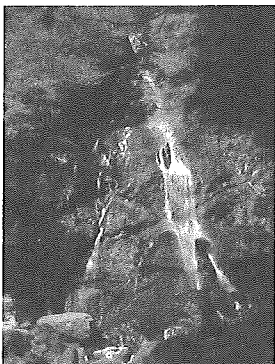
こんにちは。滝ッズ楠田です。皆さん元気によってますか？最近はいよいよ忙しかったり、梅雨時がかさなったりと滝に行っていないので、今回は少し前の思い出話でまとめます。

東吉野村「和佐羅滝」

ワサラダギと読みます。東吉野村に存在する滝の中では結構穴場で、道の駅に置いてある観光マップには簡単なポイントしか載ってない。『蛍の墓』のモノマネする勢い。「これだけえ〜？」て。「何で詳細書いてないの？」って。でも行ってみたら分かる。山の急な斜面を降りていかないとたどり着けないのね。丈の低い藪の中をかかみながら進入する箇所も多数。恐らく同村の「投石の滝」とか「七滝八壺」みたく気軽に行けるもんじゃないんで「うっかり書くと(チャレンジしちゃうし、怪我でもされちゃ)マジいよな」ってなったんでしょう。村役人の判断は正しい。この滝の面白さは山道から川辺に降り立った時にもあります。スグそこに滝が出てくる。初めて試みたの時に、それを和佐羅滝と勘違いして引き返したことがあるんですよ。ネットでも勘違いのうっかり者は多数いらっしゃいました。実はこれは滝の下段。上段、つまり滝の本体はまだもう少し先なのよ。じらしてくれるんです。こいつはイイや！

やがて、視界が開け、全貌を臨む。圧倒的な存在感があり、ドシッと「そびえて」います。ゴツゴツした大岩が周りの脇を固める。知人がこの滝を指して「大仏のような滝」と言っていました。納得、納得です。いわゆる優美さは皆無ですが、荒々しい感じがとても良い。デカいわ。やっぱ。落差は40mくらいです。んで、水もきれいなんですよ。道中結構キツイから冷たい水が気持ちいいです。足場の岩でツルっていつてズブズブに濡れていました。ツルっていいもですよ、マジで。その日はボク入れて計4人でいったんですが、五月晴れの午前でとても清々しく貴重な時間を過ごしました。ボクはこの滝の新緑がとりわけ好きなんで持っていかれそうになります。そして、上記の通りの滝なのであまり人が寄りつかない。いらん邪魔も入らないので素晴らしい環境の中で話し込むことができます。気がつけば3時間近く滝に居たと思います。

とにかく皆イイ面構えてたのが印象的でした。



極私的ハウス咄 — ダンスミュージックへの誘い

ce ce peniston thought ya knew A&M 1994

先日コレクティブ・メンバーのtawakiが部屋に遊びにきて、レコードやCDを引っ張り出してDJしつつ酒を呑んでたんですが、そんなときにtawakiが見つけたのが今回紹介するce ce penistonのthought ya knewというアルバムです。

コレを買ったのは確か高校生の頃で、当時は今ほどいろんな音源を持っているわけでもなく、数枚のCDをとっかえひっかえしながら繰り返し聴いたもんです。

ところがよく聴いた曲もレコードやCDが増えるにつれ、近くにありませんが、気付けばかなり長いあいだ手に取ることすら無かった、なんてことはありませんか？ このアルバムもそうで、だんだんと聴く回数は減り、かつてはすぐ手に取れる場所にあったのにいつしか増殖するレコード・CDに埋もれてしまっていたのです。でもひさびさに出てきたこのアルバムを聴いてみると、ぼっちメロディーを口ずさめたりして自分でも驚いてしまいます。

おっと、内容に触れる前に紙幅が尽きそうになってしまいました。——本作は彼女の2枚目のアルバムですが、当時finallyというクラブ・ヒットをだしており、ダンスパルな曲にその声が合うのは証明済みだったわけですが、スローな曲もなかなか聴かせるもので、このアルバムはスローとアプリフティングの流れが上手く構成されており、クドくなく聴きやすいものです。この夏ひさびさに部屋でよくかけそうです。皆さんも聴いてみてください。

itaru wakui

next collective

次回collectiveは
2006年秋を予定しています。
お楽しみに！

http://www.geocities.jp/collective_web/

collective全体について、またこのpress collectiveについてのご意見・ご感想が僕達の最大の活力源です！皆でもっと楽しいパーティを作りませんか？ぜひ上記WEBサイトから皆さんの声を聞かせてください！

press collective

pick up of the issue

HANKYO インタビュー

HANKYO インタビュー

今回のcollectiveのゲスト、HANKYOさんは、大阪のクラブ・パーティー“Brankett”の主宰であり、また今年神戸の栄町通りにレコードショップ“A Records”をオープンさせました。ひとつのお店の中にレコード屋と古着屋が共存するすこし変わったスタイルのお店。インタビューはそのお店で、色々なレコードを聴きながら行われました。どうぞお楽しみください！

collective (以下c) : 最初はお店のことから聞かせてください。お店オープンしたのはいつですか？

ハンキョウ(以下ハ) : お店は2月末からやな。古着担当の相方から「やろうか」って声をかけられて。

c : どうしてお店を始めたんですか？

ハ : ーこれは言ってみれば音楽活動の一環やねん。今やってる「DJ」っていうのは人の音楽を使う行為やな。それを拡大して考えると、人の曲のイメージを自分のイメージにしていくようなものかなと思うねん。店を持つっていうのも同じで、店のイメージが自分のイメージになっていくっていうような感じ。

c : なるほど。そもそもDJはいつごろから始めたんですか？

ハ : 21歳のころからかな。ちなみに今年で28歳。

c : どうしてDJを始めたんですか？

ハ : もともとはDJがやりたいっていうより、集まって何かやりたかってん。そのころはROCKやTECHNOやいろんな音でやってたなあ。グラフィティとかギターとかもやって、なんか色々表現活動してたな。

c : へえーそうなんですか。ちなみにハンキョウさんって出身は大阪ですか？

ハ : いや実家は淡路島。録音の専門学校に行くために大阪に出てきてん。リハーサルスタジオでバイトしてたよ。そこでバンドマンとか見てたら、自分でもこんくらいできるんちゃうかなって思って、一人でMTR(マルチトラックレコーダー : 複数のパートを何度も重ねて録音できる機材)にギターとボーカルとかで録音してた。ライブとかもしたけどね。人前でやんのとか恥ずかしくて仮面つけてやったりしたわ。あれ仮面つけてやって思ったけど、仮面つけてたら歌えへんねん(笑)。

c : あっはっは。確かに！

ハ : で、そっこのほうのモチベーションがあんま上からへんかったころ、友達とグラフィティやんのがおもしろくて。

c : ああ、そうしてグラフィティのほうになっていったんですね。

ハ : うん。もともと表現者っていうものに敬意を持って。例えば絵を描いて、人に見せるっていうことをする場合、そこにはまあ、「お題目」みたいなものがあるやん。そういうのをすっどできてしまう人もおるけど、なかなか自分は、そうではなかったな。グラフィティっていうと、まあヒップホップやん。ああいうヒップホップカルチャー特有の仲間を作る感じがよかった。

c : 絵はうまかったんですか？

ハ : なかなかうまくならへんかったね(笑)。でも思う通りに描くのが重要。センスあるかどうかっていうのは最初見たらわかる。でも「表現」っていうのはそこじゃない。したいようにやるっていうね。

c : グラフィティを今はやめてしまったのは？

ハ : 音とグラフィティは昔は自分の中で住み分けがあってんな。別物っていう意識で、優先順位があった。DJは当時は人の借り物っていう劣等感みたいなものがあつたけど、今はそういう住み分けとか劣等感とかなくなって、それでDJだけになった。何でもいいんやけど、「人の心を掴む」ってことが重要ちゃうかなと思うわ。それができるんなら音楽に限らず何でもいいと思う。自分は今それがDJだからやってるっていうこと。

c : 当時のDJの優先度はどうだったんですか？

ハ : 1位はグラフィティやなあ。DJはどれくらいやろう。とにかく順位低かったよ。その頃は、普通にしてても周りの一律な考え方に取込まれてしまつて感じてたな。なんかこう、「学校でたら普通に就職して」みたいなとかもそうやし、「常識」みたいなもの。そういうのに反抗していくためには徒党を組まないって感じてた。

c : グラフィティやめてからはDJばかりですか？

ハ : そう。夜とか仕事から帰ってきて、MTRで90分テープに録音して、それを聴き直したら3時間やろ。それで一日終わり(笑)。それをやる中で、DJのつなぎのときどこで次の曲を入れるかとか身につけていったな。そのタイミングを掴むために練習したね。毎日やってた。それを色々な角度から聴き直す。そういうことやっつて中で自信が形成されていったな。だから今は人が言うこととかほとんど気にならへん(笑)。

c : 店でのレコードのセレクト方針とかは？

ハ : まわりには詳しいやついっぱいおるからそこで勝負してもなあとは思わ。音楽活動の一環で店もやってるけど、そういう表現活動っていうのも全体的に今はもう限界がきてると思うねん。DJも他にいい方法が思いつかへんからやってるって感じで。そういうことを突き詰めていったら、何も考えへんようになった(笑)。今面白いと思うんは、最下層の人たちの音楽かな。それはもうとにかく楽しんでやっつていっし、純粋な音楽やと思う。

c : ふむ。では大阪にいたころはどこに住んでたんですか？

ハ : 最初は緑橋。そこから新世界に引っ越した。風呂とかないとこ

ハ : やっぱ風呂はあつたほうがいいな(笑)。けどどこも一緒やなあと思つたで。イメージしてるゲットーなんてないな。

c : ああ、なるほど。幻想ですか？

ハ : ゲットーに何かあるのかも、って思ってた。けどおそらくその何かはない。身の回りを面白くするしかないねん。自分を楽しませていくしかないと思うわ。例えばハウスならニューヨーク行けばなんかあるかも、っていうような感じかなあ。行くこと自体はいいけど、そこで完結はしないっていう。ゲットーミュージックってかっこいいから、何かあるかなって思うけど、実際には別に何も無いんやと思う。けどこういう話してたら、禅とかに近づいていってまうな(笑)。

c : そういえば、ハンキョウさんの名前の由来って何ですか？

ハ : いや別におもんないで。まあいいか。おみくじに「半凶」っていうのがあんな。生田神社で昔おみくじ引いて、「半凶」が出て、そこからそう呼ばれ始めてん。で、それがDJ始めたころで、DJの名前とかないからこれでええかって思つて。

c : へえー「反響」とかじゃなくて、おみくじの「半凶」だったんですね。では最後にお店とかで宣伝などありますか？

ハ : そうやなあ。お店に来るとき事前にメールしてもらつたらおもてなしますよ。ぜひ来てください。メールアドレスは、ripe-record@w6.dion.ne.jpです。あと、僕らのやってるパーティー“Brankett”を7月28日に大阪のクラブflattでやります。

c : 今日はどうもありがとうございました！

【特別セール情報】

このPress collectiveか、collective vol.8のフライヤーを持参すれば、以下のA Recordsオススメ盤を、通常¥1200のところを¥1000にプライスダウン！数に限りがありますのでお早めどうぞ！

artist : Alif Tree

title : Forgotten Places (Moodymann Remix)

label : compost

